

6 りんご黒星病の重点防除時期

一次感染はりんごの発芽期より始まるので、防除適期はりんごの発芽期から落花20日後頃までである。特に開花前の防除は省略できない。

(1) 背景とねらい

りんご黒星病は昭和56年の多発生（発生面積144ha、同率4.5%）に引き続き、本年も県中北部を中心に県下全域で大発生した（発生面積885ha、同率26.8%）。本病は低温（15～20℃）寡照、多湿の気象が続くと感染およびまん延が活発となる。このため本病の防除はりんごの生育期間全期にわたって実施する必要がある。しかしながら、本病の発生生態から考え越冬伝染源からの一次感染を適確に防除することによって以後の発病を抑制することができる。黒星病の防除適期を把握するため、防除薬剤を組み合わせる本病の多発した現地圃場で検討した結果、一応の成果が得られたので参考に供する。

(2) 技術の内容

- 1) 黒星病の防除適期はりんごの発芽期から落花20日後頃までである。現行の防除薬剤は予防剤であるため、感染前に散布して防除効果の向上をはかる（表-1、図-1）。
- 2) 一次感染の防除薬剤としてはスパットサイド水和剤、ダコニール水和剤、ダイカモン水和剤、サンアップ水和剤、キャプタン水和剤、ジマンダイセン水和剤、アントラコール水和剤およびダイホルタン水和剤がある（表-1、図-1）。

(3) 指導上の留意事項

- 1) 越冬伝染源による一次感染はりんごの発芽期より始まるので、開花前の防除は省略できない。
- 2) スパットサイド水和剤およびダコニール水和剤はモニリア病との同時防除が可能である。この場合の散布時期は発芽期および展葉期である。
- 3) ダイカモン水和剤およびサンアップ水和剤はうどんこ病との同時防除が可能である。この場合の散布時期は展葉期～落花20日後である。

(4) 当該事項にかかる試験研究課題名

果樹の主要病害の生態と防除（昭和55～57年）

(5) 参考文献・資料

- 1) 寒冷地果樹に関する試験成績
昭50 （北海道立農試）
昭51 （青森りんご試）
昭51 （秋田果試鹿角分場）
昭56 （岩手園試）
- 2) 西田 勉：りんごの黒星病

北海の果樹：りんごの黒星病

3) 岩手県園芸試験場：昭和 56 年度 普及奨励事項並に指導上の参考事項

4) " : 昭和 56, 57. 園芸作物の病害虫に関する試験成績

(6) 試験成績の概要

表-1 防除時期および防除薬剤

(昭 57 岩手園試)

区別	展葉期 (10/V)	開花前 (20/V)	落花期 (5/VI)	落花10日 後(15/VI)	発病率 (%)		
					花葉そう	新梢葉	果実
1-A	○	○	●	●	17.8	17.6	21.5
1-B	◎	◎	●	●	24.1	18.9	32.5
1-C	●	●	◎	◎	26.2	18.7	28.0
平均	※	※	※	※	22.7	18.4	27.3
2-A	-	○	●	-	19.8	17.2	22.3
2-B	-	◎	●	-	24.2	18.3	43.0
2-C	-	●	◎	-	27.3	20.3	40.1
平均	-	※	※	-	23.8	18.1	35.1
2-D	-	⊗	⊗	-	13.2	15.1	34.9
3-A	-	-	○	○	43.1	36.5	86.5
3-B	-	-	●	●	44.1	33.4	89.4
3-C	-	-	◎	◎	37.5	22.9	65.6
平均	-	-	※	※	41.6	30.9	80.5
4-A	○	○	-	-	34.1	29.0	41.5
4-B	◎	◎	-	-	31.3	22.0	44.0
4-C	●	●	-	-	27.5	24.4	38.8
平均	※	※	-	-	31.0	25.1	41.4
無散布	-	-	-	-	47.8	42.3	93.8

○ ジマンダイセン水和剤 500 倍

⊗ ダイホルタン水和剤 1,500 倍

◎ アントラコール水和剤 500 倍

※ 散布

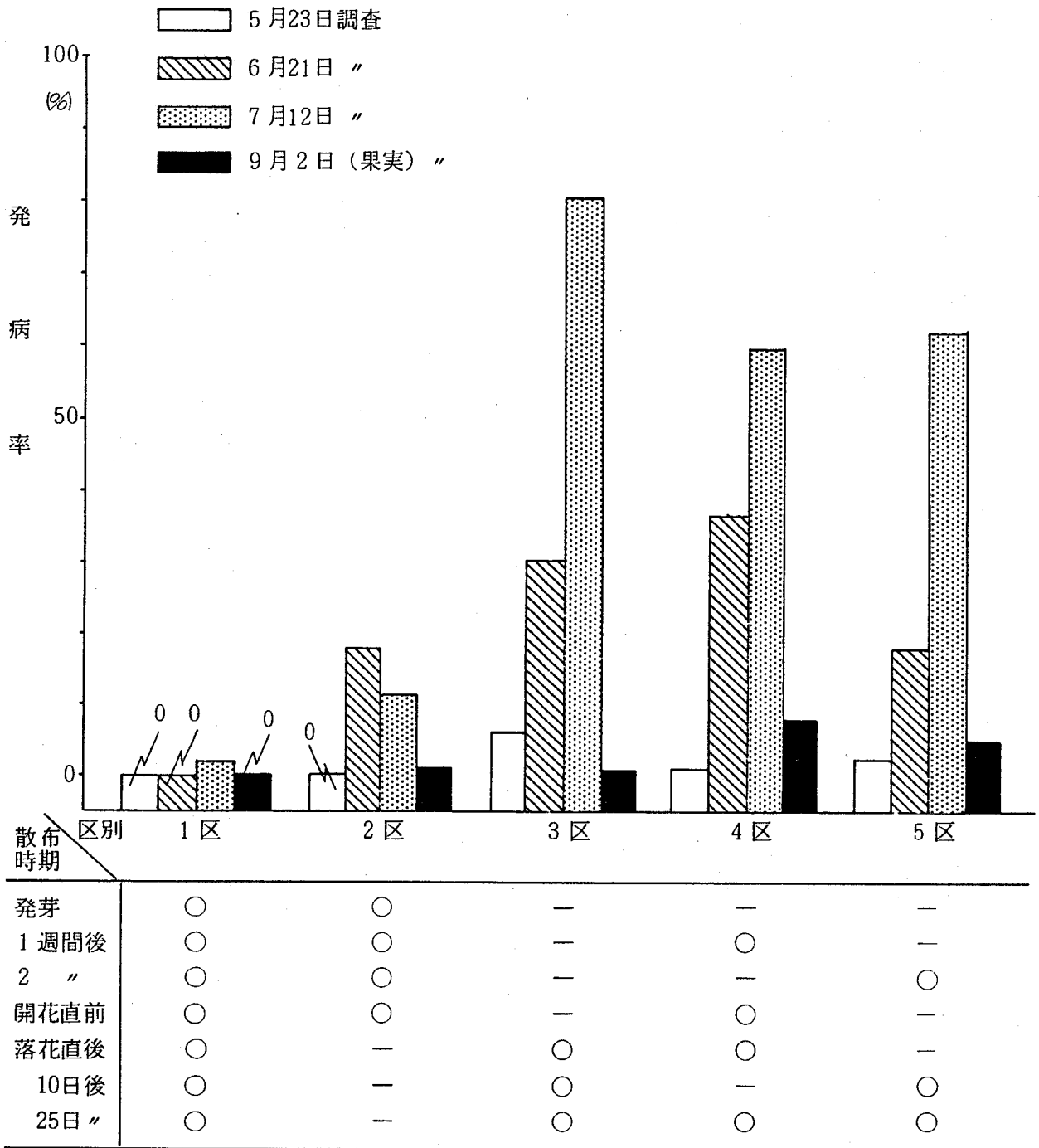
● キャプタン水和剤 800 倍

- 無散布

1) 防除効果は展葉期から落花 10 日後まで 4 回散布した区がもっともすぐれ(1区)、次で開花期前後の 2 回散布区がすぐれた(2区)。開花前および落花後のみの散布区は劣った(3・4区)。

2) ダイホルタン水和剤を用いた開花期前後の散布は効果がすぐれた。

図1 防除時期 (昭51 秋田県試鹿角分場)



開花前の防除効果が高い。